第 6 章

全工協会のあゆみ

大正3年(1914)に第1次世界大戦が勃発した。

この結果、大戦前は大幅な輸入超過で危機的な経済状態であった日本は、開戦と同時に参戦国が輸出の縮小や 軍需品の需要のため輸出が激増したことにより、軍需景気に沸いた5年間であった。

しかし、大正7年(1918)第1次世界大戦が終結し、徐々に景気が冷え始め、大正9年(1920)は株式市場が大暴落し、第1次大戦後の恐慌が始まった。

そんな中、大阪府立商品陳列所に協賛団体として「商工中心会」が創設された。この「商工中心会」の事業の一つとして工業教育に関する問題が提起され、それが大阪の工業学校長とのつながりが生じ、更に近畿全域にまで広がった。このような情勢を踏まえて「商工中心会」の発足の年を本協会の歴史の始まりの年とした。

それから後、今日までの100年間を工業教育の充実発展のため諸事業を起こし実施してきた。しかし、その間の「全工協会のあゆみ」を全て述べるには記述ページ数に制限等があるため難しく、各年度は要点だけの記載とし、本紙の内容は、大正9年~平成31年5月の「全工協会のあゆみ」の内容を記述する。

歴代の会長及び理事長については第7章第5節に掲載 しているので参照されたい。

80周年終盤の1999年~2000年は20世紀から21世紀の大きな変わり目であった。平成11年(1999)12月31日の23時59分から平成12年(2000)1月1日0時の境を、今でも思い出すと恐怖感が残っている。平成12年(2000)の日付が変わる午前0時には「コンピューター西暦2000年問題」が発生し、パソコンから産業の制御用コンピューター・経済界で使用されているコンピューター等の全てに誤動作が生じ、国際経済が大混乱して深刻な不況に陥るとか、鉄道・航空管制などの交通機能の停止も予想されたため、プログラムの訂正が世界規模で行われた大変な年であった。

そんな大きな不安を抱えた平成11年であったが、あらゆる手を尽くした結果、「コンピューター西暦2000年問題」は大きな問題もなく21世紀がスタートした。

バブル崩壊後の日本経済も何とか立ち直った10年間(2000年~2009年)であったが、平成20年秋からのアメ

リカ発の金融危機影響による世界不況が日本経済に悪影響を及ぼした。

そういう中、工業教育の活性化や工業教育の充実振興を目指した新しい事業の数々の展開や全国的に大きな学校改革が行われ、激動の10年間(2010年~2019年)であった。

その詳細は全国の各都道府県の代表校長からの報告や 第7章から10章にも掲載をしているので、参照されたい。

第1節 創立から平成30年度までのあゆみ

初代会長は、山口貴雄であり、愛知県商品陳列館長、大阪府立商品陳列所長を歴任、博物館事業促進会(現博物館協会)の発足時から評議員として名を連ねた人である。大阪府立商品陳列所には、「工業試験部」が設けられ、化学的商品や鉱物の定量分析や定質分析を行い、最新の参考品を展示・紹介し、その啓蒙を図る「発明奨励」を行っていた。その関係で工業学校長との関係が深まり、初代会長となった。本協会前身の「工業教育振興会」初代会長でもある。

大正11年(1922) 大阪・京都・神戸・名古屋・横浜・ 東京の六大都市工業学校長会ができた。

大正12年(1923)「全国実業教育会」(農·工·商·水関係) が発足し、大正14年には全国実業学校長会が開催された。 昭和12年(1937) 財団法人工業教育振興会の事務所が 麹町区飯田町1丁目16番地(現在の工業教育会館の所在 地)に完成した。当時は木造2階建であった。

昭和13年(1938)戦前には全国実業教育会、全国実業 学校長会、全国工業学校長会などがあり、わが国実業教 育の振興に尽くした。

昭和20年(1945)終戦により工業教育は戦時動員体制から新体制になったが、校舎が戦災を受けたり、実習設備が軍需工場に転用されたりなどしたために教育の正常化には困難を極めた。また、今後の日本の工業界の方向も定まらない状態であった。学校の統廃により、工業学校の数とその生徒数は、終戦後から2・3年の間にかなり減少した。工業学校の航空機科・燃料科など航空機関連学科が廃止または他の学科へ転科の措置がとられた。

一方終戦による工業教育の混乱を避け、学力の低下を 防ぐため、学級定員の40名標準、学力補充のため内容を 総合的・基本的な事項に重点を置くなどの諸注意が文部 省より指示された。

昭和22年(1947)戦後初めて全国工業学校長会議が都立工芸学校で開催され、以後毎年定期的に総会を開催することになった。事務所は従来、都立工芸学校内にあったが、この年から飯田町(現在の地)の財団法人工業教育振興会の事務所の2階に移転した。これによって、全国工業学校長協会と財団法人工業教育振興会と工業教育研究会の3者が名実ともに一か所に集まり、緊密な連携のもとに事業の遂行にあたることになった。また、新制中学校の発足とともにこの年から、工業学校にも併設中学校を設置することになった。

昭和23年(1948)新制高等学校が発足した。この年の5月に全国工業高等学校長協会の総会が、都立工芸高等学校で開催され、工業教育の振興について協議がなされた。

昭和24年(1949) 文部省に「職業教育課」が誕生し、 今後の職業教育の振興に寄与するものと期待された。

昭和25年(1950) 工業・農業・商業及び水産高校長協会の役員が一丸となり、職業教育振興のための法律制定を目標に「職業教育法制定推進委員会」を結成した。なおPTAの方でも全国職業高校PTA連合会を結成し、法制定に協力した。

昭和26年(1951)「産業教育振興法」が制定、公布された。 また、この年に「高等学校学習指導要領工業科編(試案)」 が発行された。

昭和27年(1952) 産業教育振興法施行規則に基づいて「高 等学校における産業教育実験実習施設設備の基準」が公 布された。

昭和29年(1954)本協会が工業教育振興会の財産を継承し事業の運営を図ることになった。また、産業教育70周年記念事業として、「第1回全国工業高等学校科長会」を開催し、工業教育の諸問題について協議を行なった。この科長会は昭和30年には第2回全国工業教育研究会議、昭和31年には第3回全国工業教育研究協議会と発展してきたが、事情によりその後中断された。

昭和30年(1955) 財団法人工業教育振興会の解散に伴い、工業教育会館を取得することになり、土地・建物・ 什器一切を559万3,000円で購入した。その後、工業教育 会館設立実行委員会で検討した結果、任意団体であった 本協会を社団法人にすることを、6月の総会で設立を決議した。

昭和31年(1956) 3月12日社団法人全国工業高等学校 長協会として認可された。この年から、現職教員研修の ため、夏季技術講習会を開始する。

昭和32年(1957) 産業教育手当を工業の教員にも支給 するよう法律改正の猛運動を行ない、その結果、昭和33 年4月28日法律が改正された。

「工業科標準テスト」並びに「計算尺技能検定試験」を 開始した。計算尺技能検定試験は時代の趨勢により昭和 55年度をもって中止。また、本年度から協会傘下の研究 団体に活動を助成するため補助金を交付開始した。

昭和36年(1961) 従来総会・研究協議会を一度に実施 していたが、本年度から春は総会、秋は研究協議会と年 2回に分けて開催することになった。

研究調査を活発にするために、本年度から次の6常置 委員会を設置した。

- (1) 教員定数問題対策委員会 (4) 進路指導対策委員会
- (2) 設備基準改正対策委員会 (5) 教育課程対策委員会
- (3) 給与対策委員会 (6) 教育財政対策委員会 その後、委員会の名称、研究範囲は時代の要請により 変化してきているが、委員会制度の基盤はこの年に確立 した。平成15年度から4委員会とした。

昭和37年(1962) 工業高校の新設が全国的に著しい傾向となり、会員校が増加するので、定款の変更を行ない理事の定員を増やした。

学習指導法の研究が盛んになり、視聴覚教材の利用が 増大したので、本協会監修のもとに16ミリ映画やスライ ド、掛図などの製作を企画し、直ちに製作に着手した。

昭和38年(1963) 全国的に工業高校が増設された。(昭和36年度412校が昭和38年度569校)

工業高校の在り方を検討するため「第2特別委員会」を設置した。従来の学力問題を研究する特別委員会を「第1特別委員会」と呼ぶことにした。

昭和40年(1965) 機関誌として「工業教育」を隔月発刊することになり、4月に第1号を発刊した。この年「数学I」の標準テストを開始したが49年度を以て休止。

昭和41年(1966)「全国工業高等学校計算尺競技大会」 を開始したが昭和54年度を以て休止した。

昭和44年(1969) 本協会創立50周年記念式典を5月27 日東条会館で挙行。

新工業教育会館(4階建延936㎡)(平成21年までの旧

工業教育会館)が落成した。

昭和45年(1970)「全国工業教育研究大会」を発足させ、 全国組織をもたない機械系・電気電子系・土木系・建築 系の全国的な研究大会を目的として開催し、以後、交互 に開催してきたが、全国組織が作られ、その目的を達成 して平成4年度(第23回)を以て休止することになった。 「製図検定試験」を開始した。昭和63年度より、機械製 図検定試験と基礎製図検定試験に変わり現在に至る。

昭和50年(1975)「情報技術検定試験」を開始し、現 在に至る。

「技術科学大学」設立要望書を衆・参両院文教委員、文 部省に提出した。

昭和53年(1978)「計算技術検定試験」を開始し、現 在に至る。

昭和54年(1979) 本協会創立60周年記念式典が5月29 日経団連ホールで挙行される。

昭和59年 (1984) 産業教育100周年記念事業として、「全 国製図コンクール (機械・電気)」「計算技術競技全国大 会」並びに「海外研修助成 (60年度より教員対象)」が 実施されることになった。

昭和60年(1985)「臨時教育審議会」「理科教育及び産業教育審議会」への対応に努めた。また、「工業教育についての提言」をまとめ発表した。

昭和61年(1986)「高等学校工業科卒業者の大学入学 選抜に関する陳情書」を作成し、国・公・私学の大学へ 今後、毎年陳情することとした。

昭和62年(1987) 文部省は「職業教育に関する技術検 定制度の研究開発等会議」を発足させ、新たな技術検定 制度の研究開発に着手した。本協会としても、検定事業 の拡大を図ることとなった。

昭和63年 (1988) 本協会内に「資格取得に関する委員会」 を設け、検討に入った。5月に、創立70周年記念恒久事 業としての「教職員表彰規定」「生徒表彰規定」が制定 された。

平成の時代に入り、工業高校活性化策のため、本協会 の行事・催物が数多く実施されるようになった。

平成元年 (1989)

・本協会顕彰規程による、第1回教職員及び生徒表彰を 行ない教職員表彰10件、生徒表彰40件の決定を見た。

平成2年(1990)

・「はいすくーる落書き」放送について抗議し、要望書

を東京放送 (TBS) に提出した。

・「中央教育審議会審議経過報告」に対する意見を工業 部会として提出した。

平成3年(1991)

- ・高等学校における工業教育の研究・啓発び充実、振興 のための研究、資料収集及び整備、研究活動の援助等 を遂行するために、社団法人全国工業高等学校長協会 付属工業教育研究所を開設した。
- ・文部省並びに産業教育振興中央会主催の第1回全国産 業教育フェアが千葉県において開催された。

平成4年 (1992)

- ・工業教育会館の改修工事が竣工した。その内容は、3 階の改修、職員の更衣室の新設、1階駐車場の事務室 (賃貸用)への改装などを中心とした、工業教育会館 の整備と活用を目的に改修した。
- ・本協会付属工業教育研究所の開所式を行ない、本格的 に業務を開始した。
- ・本協会では、本年度当面する各種の課題に対処するため「工業教育理念検討委員会」「産業技術大学推進委員会」「国際化事業推進委員会」の3委員会を新設し問題解決に取り組むこととした。

平成5年(1993)

- ・第1回高校生ロボット相撲全国大会(決勝大会)を第 3回全国産業教育フェアのイベントとして、富山県民 ホールに於いて開催した。
- ・「第1回高等学校工業科生徒研究成果発表全国コンクール」を関東地区工業高等学校長会主管で、東京都北区「北とぴあ」において盛会に開催された。

平成6年(1994)

- ・工業教育理念検討委員会が「未来に羽ばたく魅力ある 工業教育を目指して」の報告書を作成した。
- ・「産業技術大学推進委員会」報告―若年からの工業教育システム―の発表並びにパンフレット [産業技術大学] ―21世紀を担う、新しい工学教育がここから始まる―を作成した。

平成7年(1995)

・ニューヨーク州との生徒交換交流協定締結のため、渡 邉理事長を団長に4名をニューヨーク州オルバニー市 に派遣した。

平成8年 (1996)

- ・本協会のホームページをインターネット上に開設。
- ・「工業教育活性化セミナー」を開始した。特別選抜の

推薦入学の拡大に伴い進学希望者に対し事前教育を徹底すること、また、就職希望者に対し将来を見通した 進路指導を行なうなど目的としての活性化事業である。当面、3箇年実施を目標とし、各県における本事業の拡大を期待するものである。

- ・第1回DTP (Desk Top Publising) 検定試験を開始した。 平成9年 (1997)
- ・「今後の教育課程のあり方について」本協会の意見を 教育課程審議会に具申した。
- ・「工業高等学校における工業所有権教育充実への支援 について」を文部省初等中等教育局長、科学技術庁長 官、特許庁長官、都道府県工業所有権担当者に要望書 を提出した。
- ・「科学技術基本法に関して」要望書を科学技術庁長官、 文部省初等中等教育局職業教育課長に提出した。

平成10年(1998)

・電気工事施工技術者試験の新設について、建設省、(財) 建設業振興基金に要望書を提出した。

平成11年 (1999)

3月19日 本協会の工業教育会館を委託警備とするため、警備システム工事及び管理人室の改装工事、塗装工事、非常階段の取り替え工事等が竣工。

5月25日 第50回総会・研究協議会が「ホテルグランドパレス」にて10時から正会員総数657名、参加総数444名の正会員と来賓・招待者等57名の参加にて開催された。 創立80周年記念式典のために講演はなし。

12時30分より同「ホテルグランドパレス」にて創立80 周年記念式典が444名の正会員と来賓・招待者等108名の 参加にて開催された。記念シンポジウム実施。

7月21日~8月31日 夏季教職員技術講習会が全国35会場、25日間、30講座、全受講者345名によって開催。

8月19日~28日 文部省委託新産業技術者等指導者養成講習(情報技術コース10日間)が「株式会社内田洋行幕張研修センター」で19名の参加にて開催。

8月23日~26日 文部省委託新産業技術者等指導者養成講習(先端技術体験プログラムコース4日間)が「宇宙開発事業団 筑波宇宙センター」で35名の参加にて開催。10月23日~11月6日 平成11年3月14日~28日に国際化事業として、NY州との生徒交換交流で千葉県立京葉工業高等学校・北海道札幌琴似工業高等学校の生徒2組、2名が派遣された。相互交流として、上記2校がNY州の生徒を受け入れ、ホームステイをした。

NYのMadison Oneida Bocesから教師のジム・ディロリオ氏、生徒のコディー、ロウ君、クリストファー・スパダフォラ君、Eastern Suffork Bocesから教師のフランシス・ニルセン氏、生徒のアレキサンダー・テルリィッソ君、キハラ・グラマー君らが来日した。

11月~「資格認定委員会」が委員5名によって発足。 11月5日~7日 第9回全国産業教育フェア島根大会開催。スローガンは「つくる夢 地球の未来 ぼくらの希望」。会場となった、くにびきメッセでは、作品展示が行われ、島根県民体育館で総合開会式、作品研究発表等があり、他の会場として松江市総合体育館、鹿島町立総合体育館が使用された。記念講演はファッションデザイナー 森 英恵「東と西の出会い」で行われた。

11月7日 全国産業教育フェア会場にて「第7回高校生ロボット相撲全国大会(決勝大会)」が開催された。 11月20~22日 第47回研究協議会が「広島県広島市NTTグレドホール」にて正会員343名、来賓等は46名が参加し開催された。本部研究報告は8件、協議題6件、

理事会・評議員会・総務理事会・顧問会で工業教育活性化事業として、工業教育の活性化のための活性化セミナーの開催。29県で1県当たり10万円を助成。

生徒研究発表は中国地区の5件。

11月26日 第7回高等学校工業科生徒研究成果発表全国 コンクールが大阪府立青少年会館文化ホールで開催され た。出席者は文部省・生徒・教員・関係諸団体約2500名。 12月11日~18日 ACTE年次総会への視察団派遣。団 長稲見理事長・校長など4名派遣(フロリダ州・ワシントン市・ニューヨーク市等)。

12月23日 第11回全日本ロボット相撲大会が両国・国技 館で開催。自立型64台、ラジコン型64台で競われた。

平成12年 (2000)

2月15日 第11回教職員・生徒の表彰により教職員に地 区推薦は9地区、9件に表彰状、奨励金 府県推薦は40 府県、40件に表彰状。生徒表彰は45都道府県45件に表彰 状、記念品が贈られた。

5月23日 第51回総会・研究協議会ホテルグランドパレスで行われた。正会員435名と来賓顧問賛助会員44名の合計479名の参加によって行われた。文部政務次官森田健作氏、都道府県教育長協議会幹事長 中島元彦氏。来賓として文部省初等中等教育局主任視学官 岩本宗治氏、同職業教育課長 福島健郎氏等が参加。講演は経済ジャーナリスト フイングルトン氏による「製造業が日

本を救う」の演題で行われた。

7月21日~8月31日 夏季教職員技術講習会が全国で開催され28講座、全受講者数は334名。

8月21日~24日 文部省委託新産業技術等指導者養成 講習(先端技術体験プログラムコース4日間)会場は宇 宙開発事業団の筑波宇宙センターで行われ、内容は衛星 データ処理、ロケット構造とシミュレーション、宇宙材 料開発と産業応用等。37名が参加。

8月21日~31日 文部省委託新産業技術等指導者養成 講習(情報技術コース10日間)が株式会社内田洋行の潮 見オフィスで行われた。内容はマルチメディアとデジタ ル技術に関する講義と実習。21名が参加。

10月25日~27日 第48回研究協議会が北海道札幌市 ホテルライフォート札幌で行われた。正会員324名、来 賓等52名の合計376名が参加。本部研究報告7件、協議 題6件、北海道地区の生徒による生徒研究発表4件文部 省初等中等局職業教育課長 山田道夫氏による講話「当 面する工業教育の課題について」。

11月9日~12日 第10回全国産業教育フェア徳島大会開催。テーマは「はばたけ21世紀の空へ 我ら未来のスペシャリスト」。開会式は徳島県郷土文化会館で行われ、作品・研究発表はアスティとくしまで行われた。徳島市立体育館では作品展示が行われ、他に会場として、藍場浜公園、鳴門県民体育館が使用された。記念講演として株式会社 ジャストシステム社長 浮川和宣氏「21世紀のデジタルライフ」が行われた。

11月12日 第8回高校生ロボット相撲全国大会(決勝大会)が徳島県郷土文化会館(第10回全国産業教育フェアイベント)の会場で行われた。参加者は予選の勝者で自立型32台 ラジコン型32台で競われた。観客は約1,000名。

11月28日 第8回高等学校工業科生徒研究成果発表全国 コンクールが岡山県倉敷市民館で行われた。参加校は、 9地区及び地元代表10校であった。文部科学省、生徒、 教員、関係団体2,500名が参加。

12月23日 第12回全日本ロボット相撲大会が両国・国技 館で行われ、自立型64台、ラジコン型64台が参加。

平成13年 (2001)

1月6日 中央省庁の再編整備により、文部省と科学技 術庁が統合され文部科学省となる。

4月1日 ジュニアマイスター顕彰制度発足。

5月22日 第52回総会・研究協議会が千代田区公会堂で

開催された。出席者は442名の正会員(内委任状175名) 来賓・名誉会員・賛助会員等48名が参加した。来賓祝辞 として、文部科学省岩瀬公一氏等からあった。講演は放 送大学教授 森谷正規氏「21世紀に日本は何で食べてい くのか」の題目であった。

7月21日~8月5日 第1回生徒海外研修が南オーストラリア州アデレードで行われた。出発の7月21日(土)は羽田空港特別室に於いて、オーストラリアホームステイ参加生徒の結団式を行った。結団式は参加生徒は20名の他、見送り生徒や保護者55名、国際化委員4名と合計90名。参加生徒は、帰国後、研修の成果を喜んだ。

7月21日~8月31日 夏季教職員技術講習会が全国35会場、32講座、342名の受講者によって開催。

8月18日 第1回高校生ものづくりコンテスト全国大会が東京都立江戸川技術専門校で開催。NHKニュースにも放映された。

実施に際し、産業各界からの協賛金、校長、教頭の寄付、また、関東地区の教員の協力のもと、成功した。

8月20日~23日 文部科学省委託新産業技術等指導者 養成講習(先端技術体験プログラムコース)が茨城県の 宇宙開発事業団 筑波宇宙センターで開催。衛星データ 処理、ロケット構造とシュミレーション、宇宙材料開発 と産業応用等のテーマで行われ、30名の参加者。

8月21日~31日 文部科学省委託新産業技術等指導者養成講習(情報技術コース)が株式会社内田洋行 潮見オフィスで開催された。内容はマルチメディアとデジタル技術に関する講義と実習であったが、30名の参加者。10月24日~26日 第49回研究協議会が横浜駅西口正面の横浜ベイシェラトンホテル&タワーズにて開催された。正会員363名、来賓他51名を迎え、本部研究報告8件、協議議題6件、生徒研究発表(関東地区)6件の内容にて開催。文部科学省 佐藤義雄教科調査官の講話「新教育課程についての考え方と取り組み」。

11月8日 岐阜県長良川国際会議場大ホールにて第11回 全国産業教育フェア岐阜大会の総合開会式が行われた。 テーマ「磨こう心と技、語ろう夢と希望」。長良川国際 会議場ではアトラクション、記念講演、ファッション ショーが行われた。岐阜メモリアルセンターでは大型融 合作品展示、日本一コーナー、体験ゾーン、各学科の特 色を生かした発表や実演、作品展示、各種協議会等の催 し物が行われた。未来館では研究発表・体験発表・国際 交流フォーラム・進路指導セミナーシンポジウムが行わ れた。記念講演として、モデル 松井大典氏「自分探し の旅」が行われた。

11月11日 第9回高校生ロボット相撲全国大会(第11回 全国産業教育フェア)が岐阜県民文化ホール未来会館に おいて開催。

11月30日 高等学校工業科生徒研究成果発表全国コンクールが香川県民ホール北館アクトホールで開催。研究発表は全国9地区、及び地元代表校10校。

平成14年 (2002)

1月13日 第7回ジャパンマイコンカーラリー 2002が 例年どおり発祥の地、北海道で開催。全国から参加校数 56校。参加台数120台。全工協会が協力を強めることに なった。

2月15日 平成13年度第1回ジュニアマイスター顕彰認定者数、ゴールド1,016名、シルバー3,266名、合計4,282名。5月28日 第53回総会・研究協議会が千代田区公会堂で開催された。出席者合計648名。(内委任状232名)来賓祝辞として、文部科学省 小畔参事官、都教育庁 押切教育次長からあった。講演は岩手県立大学学長 西澤潤一氏「工業教育について」の題目で行われた。

7月21日~8月4日 第2回生徒海外研修事業が南オーストラリア州のアデレード市で行われた。南オーストラリア州立高等学校及びTAFE(テイフ)カレッジへ英語研修、工業技術研修、高校授業体験、校外活動等へ青森県から長崎県までの15県の工業高校生20名が参加。

7月22日~26日 文部科学省委託新産業技術等指導者 養成講習会(新産業技術コース)が大阪機工株式会社の 東京テクニカルセンターで開催された。内容はマシニン グセンターのプログラミングと生産の自動化で、全国電 子技術教育研究会の協力のもとに16名の参加者。

7月31日~8月2日 新規開催夏季講習会がホンダ技研 工業(株)人材育成センターで開催。

講義内容は、四輪用ガソリンエンジンの構造と取扱(分解・組み立て・調整)・電子制御式燃料噴射装置・自動車新技術(VTEC、LEVなど)についてであった。参加者は機械系教員20名。

8月12日 第2回高校生ものづくりコンテスト全国大会 が東京都立江戸川技術専門校で行われた。自動車整備部 門、橋梁模型製作部門が新たに加わる。

8月19日~22日 文部科学省委託新産業技術等指導者 養成講習会(先端技術体験プログラム)が宇宙開発事業 団 筑波宇宙センターで開催された。内容は衛星データ 処理と教育活用・ロケット構造とシュミレーション・国際宇宙ステーション・モデルロケットの製作と打ち上げ等の内容を宇宙開発事業団研究員の講師によって行われた。参加者は30名。

8月21日~31日 文部科学省委託新産業技術等指導者 養成講習会(情報技術コース10日間)が株式会社内田洋 行汐見オフィスで開催。内容はマルチメディアとデジタ ル技術に関する講義と実習であった。参加者は30名。

10月23日~25日 第50回秋季研究協議会大分大会開催。 会場は大分全日空ホテル。来賓として、文部科学省萩明 教育調査官、大分県教育委員会 石川公一教育長他。

萩 明氏講話「産業教育の振興について」。

11月1日~3日 第12回産業教育フェアが開催され、テーマは郷土の文学者宮沢賢治が理想とした「夢の世界(イーハトーブ)」の実現を目指し岩手県で開催。総合開会式は盛岡市民文化ホールで行われた。岩手産業文化センターのアリーナステージでは高校生によるファッションショー、郷土芸能、バトントワリング、演劇が行われ、催事場・会議場では作品展示やものづくり展・技術教育創造の世界展等が行われた。

11月2日 岩手県北上総合体育館で第10回高校生ロボット相撲全国大会が開催された。地区大会における高校生上位各32台、計64台によりトーナメント方式で決勝戦。

平成15年(2003)

1月12日 北海道札幌国際情報高等学校特設コースで ジャパンマイコンカーラリー 2003が開催された。競技 は2台併走のタイムレースによる予選と成績上位32台に よる決勝トーナメントが行われた。

2月15日 平成14年度ジュニアマイスター顕彰年間認定者数、ゴールド1,313名、シルバー3,760名、合計5,073名。5月27日 第54回総会・研究協議会が千代田区公会堂で開催された。出席者は648名(内委任状は230名)であった。来賓として文部科学省参事官 小畔敏彦氏、文部科学省教科調査官 佐藤義雄氏等があった。講演は元文部大臣有馬朗人氏「工業教育・工業高校に期待すること」、日本オラクル株式会社取締役社長 新宅 正明氏「日本オラクルの経営戦略と人材育成」の2テーマが行われた。7月21日 第3回生徒海外研修が南オーストラリア州アデレード市で16日間行なわれた。生徒は21名参加で、引率者は国際化委員2名、教諭1名。

8月11日 第3回高校生ものづくりコンテスト全国大会が東京都立江戸川技術専門校で開催。

10月17日 第13回全国産業教育フェア(北海道大会)が開催され、総合開会式は、札幌市内「かでる2・7」大ホールにて行われた。テーマ「北の大地から若人が拓く技術の扉」で10月17日から19日まで3日間開催。作品展示はアクセスサッポロ大展示場で実施。

10月17日 第3回高校生ものづくりコンテスト全国大会 (北海道大会)の木材加工部門、橋梁模型製作部門がアクセスサッポロで開催された。高校生ものづくりコンテスト全国大会は、木材加工・橋梁模型製作部門のみがアクセスサッポロで実施され、第3回にして東京から産業教育フェアに一部移った大会である。

10月19日 第11回高校生ロボット相撲全国大会(第13回 全国産業教育フェア北海道大会イベント)が札幌市民会館ホールで開催。

10月22日~24日 第51回秋季研究協議会大阪大会開催。 会場は、大阪ドーンセンター。来賓として、文部科学省 小畔敏彦参事官、大阪府教育委員会 竹内 修委員長他。 小畔敏彦氏講話「産業教育の振興について」。

平成16年 (2004)

1月11日 ジャパン・マイコンカーラリー 2004大会が 北海道国際情報高等学校で開催された。高校の参加台数 は60校120台。

1月16日 第1回技術・アイディアコンテストの1次審査が行われた。

1月23日 第1回技術・アイディアコンテストの2次審査が行われた。

1月18日 ロボットフットボール実験戦が東京都立葛西 工業高等学校で開催。参加校は13校、1チームは5台で 計65台が参加した。

2月15日 平成15年度第3回ジュニアマイスター顕彰認定者数、ゴールド1,470名、シルバー4,145名、合計5,615名。5月25日 第55回総会・研究協議会が千代田区公会堂で開催された。出席者は654名(内委任状219名)であった。来賓として、文部科学省参事官 中川健朗氏、文部科学省産業教育調査官 棚木紀雄氏、東京都教育庁指導部長近藤精一氏等多数であった。講演として、早稲田大学名誉教授 長澤和俊氏「シルクロードの秘境と探検―桜欄王国の謎を探る―」、辻谷工業代表取締役 辻谷政久氏「ものづくりの大切さについて」。

7月22日~8月6日 第4回オーストラリア海外研修が 南オーストラリア州アデレード市で行われた。参加者は 生徒12名、引率者3名。 7月22日~ 教職員夏季講習会が全国の35会場で開催された。受講者数は212名(昨年度は345名)。

7月28日~8月1日 文部科学省委託新産業技術等指導 者養成講習(新産業技術コース)が大阪機工東京テクニ カルセンターで開催され、内容はマシニングセンターの プログラムと生産の自動化で参加者は25名。

8月8日 第4回高校生ものづくりコンテスト全国大会 東京大会(旋盤作業・自動車整備)が東京都立江戸川技 術専門校で行われた。他の種目は10月29日に第14回全国 産業教育フェア広島大会で実施。

8月18日~21日 文部科学省委託先端技術体験プログラムが宇宙開発事業団の筑波宇宙センターで開催。

内容は衛星データ処理、ロケット構造とシュミレーション、宇宙材料開発と産業応用等。参加者30名。

8月18日~29日 文部科学省委託新産業技術等指導者 養成講習(情報技術コース10日間)が株式会社内田洋行 の潮見オフィスで開催された。内容はマルチメディアと デジタル技術に関する講義と実習。参加者は22名。

10月20日~22日 第52回秋季研究協議会富山大会開催。 会場として、インテックビル タワー111。来賓として、 文部科学省 中川健朗参事官、富山県教育委員会 福岡 隆委員長他。中川健朗氏講話「専門高校をめぐる最近の 状況と期待」。

10月29日 第14回全国産業教育フェア(広島大会)が郵便貯金ホールの会場にて開会式が行われた。マツダ株式会社代表取締役社長 井巻久一氏を講師に迎え記念講演を開催。

作品展示は広島県立総合体育館アリーナ、柔道場、剣 道場で行われた。

10月29日 第4回高校生ものづくりコンテスト全国大会が広島県立総合体育館・武道場(電気工事、電子回路組立、木材加工、橋梁模型製作)、広島県立広島工業高等学校(化学分析)で開催。

10月30日 第12回高校生ロボット相撲全国大会が広島市南区民文化センターホールで開催。

10月31日 全国高等学校ロボット競技大会が福山市緑町 公園屋内競技場で開催。出場台数は192台。

平成17年(2005)

1月9日 ジャパンマイコンカーラリー 2005大会が NTT北海道セミナーセンターの特設会場で開催された。 参加台数は76校/120台、完走台数は48台(40%)。

2月15日 平成16年度第4回ジュニアマイスター顕彰認

定者数、ゴールド1,726名、シルバー4,638名、合計6,364名。 5月24日 第56回総会・研究協議会が東京都千代田区公 会堂で開催された。出席者は637名(内委任状248名)で、 来賓として衆議院議員(元文部大臣)小杉 隆氏等が 参列された。講演として作家 田村喜子氏「土木の心」、 日本ベルパーツ株式会社取締役会長 西畑三樹男氏「技 術教育と国際感覚を如何に育てるか」。

7月23日~8月7日 第5回オーストラリア毎外研修。 9名の生徒が参加した。場所は南オーストラリア州アデレード市のCharles Campbell Secondary School。

8月7日 第5回高校生ものづくりコンテスト全国大会が東京都立江戸川技術専門校で行われた。秋の全国産業教育フェアが今年度は東京であり、高校生ものづくりコンテスト全国大会は、前倒しして、この時期に開催。

7月20日~8月31日 夏季講習会が全国の企業や学校を 会場として開催された。33講座(昨年は28講座)。

8月15日~19日 文部科学省委託研修・新産業技術等 指導者養成講習会が富士ソフトABC株式会社東京オ フィス2階で「情報産業の最新動向」をテーマに開催。 参加者は21名。

8月17日~30日 文部科学省委託研修・新産業技術等 指導者養成講習会が株式会社内田洋行の潮見オフィスで 開催された。テーマは「将来の社会を見据えた情報基礎 等」他。参加者は10名。

8月26日~27日 第1回若年者ものづくり競技大会開催。開催場所は独立行政法人雇用・能力開発機構千葉センター、ポリテクセンター千葉。

10月26日~28日 第53回秋季研究協議会徳島大会開催。 会場は、アスティとくしま。来賓として、文部科学省嶋 貫和男参事官、徳島県教育委員会 佐藤 勉委員長他。

池守 滋教科調査官講話「これからの工業教育」。

11月13日 建築・電気工事の施工技術者試験実施。

11月23日 第13回全国高等学校ロボット競技大会(宮崎 大会)が宮崎県立体育館で128チームが参加。

11月26日~27日 第15回全国産業教育フェア東京大会 開催。主会場は日本科学未来館、他に東京国際交流館、 船の科学館前:船舶停泊所、東京ファッションタウンビ ルが会場であった。テーマは「首都東京からの情報発信 お台場に夢ひらく豊かな心」であった。

11月26日 第13回高校生ロボット相撲全国大会が日本科学未来館のシンボルゾーン1階で開催。

11月27日 第1回高校生ロボットアメリカンフットボー

ル全国大会が東京ファッションタウンビル1階で開催。 各都道府県代表のチーム及び東京代表(シード)の合計 48チームで、トーナメント方式により実施。

平成18年 (2006)

1月8日 ジャパンマイコンカーラリー 2006大会が北 海道札幌国際情報高等学校で開催。

1月16日 第3回技術・アイディアコンテストが厚生労働省、経済産業省、特許庁後援によって行われた。

1次審査では応募件数が74件(昨年は52件)。

1月27日 同第2次審査。

2月28日 平成17年度第5回ジュニアマイスター顕彰年 間認定者は、ゴールド1,929名、シルバー4,828名、総合 計は6.757名。

5月23日 第57回総会・研究協議会が千代田区公会堂で開会した。来賓祝辞として衆議院議員 島村宜伸氏、同小杉 隆氏、文部科学省初等中等教育局参事官 嶋貫和男氏、経済産業省経済産業政策局参事官 守本憲弘氏等からあった。出席者633名(含委任状256名)。講演はデンソー工業技術短期大学校長 荻野幸一氏による「デンソーにおける人材育成について」。今回は、研究協議を実施し、基調発表「高校生ものづくりコンテスト全国大会」(都立中野工業高校長 石坂政俊理事)、「ジュニアマイスター顕彰」(都立町田工業高校長 瀧上文雄評議員)があった。今年度より講演1、研究協議2とした。7月20日~8月31日 平成18年度夏季講習。本年の開講講座は26講座(昨年は33講座)と昨年に比較をすると大幅減少。

7月22日~8月6日 第6回オーストラリア海外研修が 実施され、16名の生徒が参加した。

8月8日~10日 第2回若年者ものづくり競技大会開催。開催場所は職業能力開発総合大学校を主会場にして、相模原市立総合北体育館等で開催。

8月14日~18日 文部科学省委託研修・新産業技術等指導者養成講習会が実施された。会場は富士ソフトABC東京ビル・本社ビルで参加者は22名であった。テーマは「情報産業最新動向について」であり、内容については①映像制作②映像における技術概要③現場視察。8月21日~25日 文部科学省委託研修・新産業技術等指導者養成講習会が実施された。会場は株式会社内田洋行の潮見オフィスで参加者は13名。テーマは「将来の社会を見据えた情報基礎、情報通信基礎等」であり、内容については①レンダリング・モデリング・アニメーショ

ンの作成 ②デジタル画像の編集・グラフィックスの作成 ③DVDオーサリングツールによるDVD作成。

10月26~27日 第54回秋季研究協議会静岡大会が静岡 文化芸術大学講堂で開催された。講演会は静岡文化芸術 大学副理事長 杉田 豊氏「新たな時代の人づくり」、 スペースクリエイション代表取締役 青木邦章氏「人材 立国「日本」における実践的な教育の在り方」の演題で 行われた。研究協議として6地区の提案協議題があった。 11月8日 「専門高校を語る夕べ」として、第16回全国 産業フェア全国大会埼玉大会前夜祭が文部科学省地下食 堂で開催された。伊吹文明文部科学大臣、副大臣、大臣 政務官等が出席。

11月10日~12日 第16回全国産業教育フェア埼玉大会 開生。メイン会場として、さいたまスーパーアリーナで あった。テーマ「若い力と技を育む彩の夢」を合言葉に 開催された。記念講演者は、毛利 衛氏により講話「何 で学校へ行くの?」。

同時開催として「埼玉県発明くふう展」「エネルギー利用技術作品コンテスト」「彩の国総合技能展」「中学生ロボットチャンピオンシップ大会」「渋沢栄一展」等が盛大に実施。

11月11日 第14回高校生ロボット相撲全国大会が埼玉市 民館おおみや大ホールで開催。

11月12日 第6回高校生ものづくりコンテスト全国大会 埼玉がものづくり大学・関東工業自動車大学校で実施。 東京以外で全種目が実施された初めての大会。

11月12日 第14回全国高等学校ロボット競技大会(埼玉大会)が「さいたまスーパーアリーナ コミュニティアリーナ」で開催。出場台数は128チーム。

平成19年 (2007)

1月8日 ジャパンマイコンカーラーリー 2007大会が 北海道札幌国際情報高等学校で開催。高校生の部は参加 台数は74校120台で競われた。

1月26日 第4回高校生技術・アイディアコンテスト全国大会の審査会実施。応募件数82件。

2月1日 平成18年度第6回ジュニアマイスター年間認 定者数、ゴールド2,051名、シルバー5,026名 合計7,077 名。

5月22日 第58回総会・研究協議会が「ホテル メトロポリタン・エドモント」で開催された。来賓祝辞として衆議院議員 島村宜伸氏、文部科学省初等中等教育局参事官 安藤慶明氏等があった。講演として、ものつくり

大学理事長 石岡慎太郎氏「日本のものづくりについて」が行われた。研究協議として「標準テスト」(山形県立米沢工業高校長 佐藤義雄理事)、「高校生技術・アイディアコンテスト全国大会」(群馬県立高崎工業高校長 堀口義雄委員長)から基調発表があった。

7月21日~8月5日 第7回オーストラリア海外研修が 行われた。参加生徒は14名。

7月21日~8月31日 平成19年度夏季講習が開催された。40講座を準備、開講31講座。

8月1日 平成19年度前期ジュニアマイスター認定委員会が開催され209校から1.412人申請があった。

8月20日~24日 文部科学省委託研修・新産業技術等 指導者養成講習会が株式会社内田洋行の潮見オフィスで 開催された。テーマは「将来の社会を見据えた情報基礎、 情報通信基礎等」で、参加者は14名。

10月23日 全工協会創立90周年事業検討委員会 (90周年 記念誌編集委員会兼記念事業総務委員会) の発足。

平成18年12月3日の理事会で「全工協会創立90周年事業(仮称)を提案し承認されていたので、新たに近県の90周年記念誌編集委員会兼記念事業総務委員会のメンバー5名を選出し、1回目の話し合いを行った。

10月25日~26日 第55回秋季研究協議会が「ホテル青森」で開催された。来賓として青森県知事 三村申吾氏、青森県教育委員会教育長 田村充治氏、八戸工業大学学長庄谷征美氏等から祝辞。

講演として、文部科学省初等中等教育局参事官 安藤 慶明氏「新しい時代の工業教育を考える」、文部科学省 初等中等教育局参事官付教科調査官 池守 滋氏「教 育改革と工業教育」、日本原燃株式会社代表取締役社長 兒島伊佐美氏から「エネルギーと環境」。研究協議とし て6地区の提案協議題があった。

11月16日~18日 第7回高校生ものづくりコンテスト全国大会静岡が開催された。旋盤作業・電気工事・電子回路組み立ての会場は静岡県立沼津技術専門校、化学分析・測量の会場は静岡県立沼津工業高等学校。自動車整備は静岡工科自動車大学校で開催。同時期に、国際技能五輪が静岡県沼津市開催のため、静岡県で同時開催。今回より橋梁模型製作部門から測量部門に変更となった。11月23日~24日 第17回産業教育フェア沖縄大会が沖縄県宜野湾市の沖縄コンベンションセンター、宜野湾公園を中心に「輝く海と太陽に集え! 創る技術と産業の輪! 未来へ発信!」をメインテーマ。開会式では文部

科学省大臣官房審議官 前川喜平氏、第17回全国産業教育フェアー沖縄大会実行委員会会長 知念榮治氏、沖縄副知事仲里全輝氏が挨拶。記念講演には女優比嘉愛末氏の講演「私からのエール 夢実現のために」。続いて比嘉氏と生徒によるトークショーが行われた。

11月23日 宜野湾市立中央公民館大集会場で高校生ロボット相撲全国大会が行われた。

12月17日 工業教育会館改修検討委員会 村田敬一委員 長より今までの経過や他の検討事項について説明があり、改築でなく建て替えでいくべきだということで一致した。

平成20年 (2008)

1月13日 第13回ジャパンマイコンカーラリー 2008大会が北海道札幌国際情報高校で開催。

1月25日 第5回高校生技術・アイディアコンテスト全国大会審査が開催。応募件数100件。

1月30日 15日にジュニアマイスター後期申請が締め切られ認定委員会が開催。439校6,136名からの申請。

2月15日 平成19年度第7回ジュニアマイスター顕彰年 間認定者数は、ゴールド2,444名、シルバー5,136名、合 計7.580名。

2月17日 第3回高校生ロボットアメリカンフットボール大会がパシフィコ横浜・展示ホールAで開催。

5月27日 第59回総会・研究協議会が「ホテル・メトロポリタン・エドモント」で開催された。来賓として、衆議院議員 島村宜伸氏、文部科学省参事官 安藤慶明氏、経済産業省中小企業庁技術課長 中野 節氏等が参列され、ご祝辞をいただいた。講演として政策研究大学院大学教授 橋本 久義氏「発展途上国に負けない日本のものづくり力」があった。研究協議として、「ジュニアマイスター顕彰の変更」(福島県福島工業高校長 栗村 知委員長)、「ものづくり産業遺産」村田敬一副理事長(群馬県立前橋工業高校長)から基調発表があった。7月19日~8月3日 第8回オーストラリア海外研修が行われた。17名の生徒が参加。

7月22日~8月31日 平成20年度夏季講習会が実施された。全国51会場を準備、開講37会場。

8月6日~8日 第3回若年者ものづくり競技大会開催。開催地は、職業能力開発総合大学校、同東京校。平成21年9月カナダ・カルガリーで開催される第40回技能五輪国際大会に派遣する日本代表選手の第一次選抜を兼ねることになった。

8月20日~24日 文部科学省委託研修·新産業技術等指導者養成講習が行われた。内容は「将来の社会を見据えた情報基礎、情報通信基礎」等で参加者は14名であった。10月23日~24日 第56回秋季研究協議会山口大会がホテル「ザ・グラマシー」で開催された。講演会は株式会社日立製作所執行常務 鈴木 學氏より「鉄道車輛事業への取り組み」の演題で行われた。

11月2日~3日 第18回産業教育フェア大阪大会がアジア太平洋トレードセンターを主会場として大阪市中央体育館、大阪市立咲くやこの花高等学校、近畿大学、大阪府立東大阪高等職業技術専門校、大阪府立布施工科高等学校等で開催。開会式では文部科学大臣政務官 浮島とも子氏、大阪府知事 橋下 徹氏、大阪府議会議長 畠成章氏、実行委員会会長・大阪実業教育協会会長 津村準二氏らが挨拶。記念講演として建築家 安藤忠雄氏「夢と勇気、そして挑戦」。続いて安藤氏と生徒によるトークショーがあった。

11月2日~3日 第8回高校生ものづくりコンテスト全国大会(大阪)が開催された。会場は大阪府立東大阪高等職業技術専門校、近畿大学理工学部、大阪府立布施工科高等学校。

11月2日 第16回高校生ロボット相撲全国大会が大阪市、中央体育館サブアリーナで開催。

11月3日 第16回全国高等学校ロボット競技大会(大阪大会)が大阪市中央体育館メインアリーナで開催。

平成21年(2009)

1月10日 ジャパンマイコンカーラリー 2009大会(第 14回)が北海道札幌国際情報高校で開催。

1月28日 第6回高校生技術・アイディアコンテスト全 国大会の審査会実施。応募件数59件。

1月30日 平成20年度ジュニアマイスター顕彰認定委員会で後期認定者決定。年間認定者数は、ゴールド2,026名、シルバー4,906名、合計6,932名。今年度より、新区分表によって認定することになった。

2月28日 第4回高校生ロボットアメリカンフットボール全国大会がパシフィコ横浜展示ホールBで開催。

4月13日 工業教育会館建設委員会の開催。第3回から 平成22年3月8日開催の第16回まで定例で実施された。 5月26日 第60回総会・研究協議会が「ハイアット リー ジェンシー東京」で開催された。文部科学省初等中等教 育局主任視学官 永山裕二氏、経済産業省中小企業庁創 業技術課長 喜多見淳一氏、東京都教育庁都立学校教育 部長 高野敬三氏等が参列され、ご祝辞をいただいた。

午後は、周年行事として「創立90周年記念式典」が挙行された。来賓は、文部科学事務次官 銭谷眞美氏、経済産業省経済産業政策局人材政策担当参事官室長 新川達也氏、東京都教育庁次長 影山竹夫氏等からご祝辞をいただいた。本協会に対して長年のご協力をいただいた企業2社、富士ソフト株式会社、株式会社ルネサステクノロジに記念品と共に感謝状を贈呈した。引き続き、記念講演会が開催された。講師は東京大学大学院教育学研究科比較教育社会学コース教授 本田由紀氏が、演題「日本社会における専門高校の可能性」と題して90分行った。夜には、記念祝賀会が開催され、多くの方々が90周年を祝った。

7月18日~8月2日 第9回オーストラリア海外研修が 計画されていたが、新型インフルエンザに対するオース トラリア州教育委員会からの考え方を検討した結果、今 回の海外研修は中止とする決定をした。6月8日の委員 会で決定。

7月23日~8月27日 平成21年度夏季講習会が実施された。全国30会場、345名受講した。

8月3日 ジュニアマイスター顕彰認定委員会が開催され、前期申請者の認定が行われた。ゴールド597名、シルバー1,545名、合計2,142名が承認された。

10月22日~23日 第57回秋季研究協議会・北海道大会がホテル「ライフォート札幌」で開催された。初日は、文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室教科調査官 池守滋氏による講話があった。演題は「これからの工業教育」であった。次に、調査研究部の4委員会から今年度の調査研究報告があった。第2日目は。演題「ピンチはチャンス」と題して、旭山動物園名誉園長小菅正夫氏の講演があった。次に、研究協議が有り、6地区から6本の研究発表があった。

11月14日~15日 第9回高校生ものづくりコンテスト 全国大会(神奈川)が開催された。旋盤作業部門は神奈 川県立東部総合職業技術校、自動車整備部門は日産横浜 自動車大学校、電気工事部門、電子回路組立部門、化学 分析部門、木材加工部門、測量部門は関東学院大学構内 で実施された。

11月14日 第17回高校生ロボット相撲全国大会が、第19回全国産業教育フェア(神奈川)のイベントとして「パシフィコ横浜」で開催された。

12月18日 第1回人工衛星打ち上げプロジェクト委員会

が開催された。

平成22年 (2010)

1月10日 ジャパンマイコンカーラリー 2010大会(第 15回)が、北海道札幌国際情報高等学校で開催された。 1月27日 第7回高校生技術・アイディアコンテスト全 国大会の審査会実施。応募件数61作品。

1月29日 ジュニアマイスター顕彰認定委員会が開催され、後期申請者の認定が行われた。ゴールド1,984名、シルバー4,373名、合計6,357名が承認された。また、通年での認定者はゴールド2,580名、シルバー5,922名、合計8,502名で、前年比122.6%であった。特別表彰2,825名、経済産業大臣賞1名、理事長賞7名、眼光表彰9校を選んで表彰した。

2月7日 第5回高校生ロボットアメリカンフットボール全国大会が、パシフィコ横浜で開催された。

4月12日 工業教育会館建設委員会の開催。6月8日に 新工業教育会館の竣工式が執り行われた。

5月8日 人工衛星打ち上げプロジェクト委員会が開催 された。今年度は合計17回の委員会を開催した。

5月25日 第61回総会・研究協議会が「ハイアットリージェンシー東京」で開催された。文部科学省大臣官房前川喜平氏、経済産業省中小企業庁創業技術課長 喜多見 淳一氏、東京都教育庁指導部長 高野敬三氏等が参列され、ご祝辞をいただいた。

研究協議会は、「九州地区工業教育活性化への取り組み」と題して福岡県立福岡工業高等学校長 野見山秀樹が、もう1本は「リスニング英語検定の現状と工業英語ベーシックブックについて」と題して愛知県立刈谷工業高等学校長 鈴木直樹が行った。講演は、アルピニスト野口健氏が「富士山から日本を変える」と題して行った。7月21日~8月5日 第10回オーストラリア海外研修が実施された。10名参加。

7月21日~8月30日 平成22年度夏季講習会が実施された。全国40会場、530名受講した。

8月2日~8月7日 第1回全国工業教育指導者養成講習会が、全国9地区から推薦を受けた18名の教諭が参加して開催された。

8月3日 ジュニアマイスター顕彰認定委員会が開催され、前期申請者の認定が行われた。ゴールド836名、シルバー1.873名、合計2.709名が承認された。

10月16日~17日 第10回高校生ものづくりコンテスト 全国大会(茨城)が開催された。旋盤作業部門は日立製 作所日立工業専修学校、自動車整備部門、電気工事部門、電子回路組立部門、木材加工部門は筑波研究学園専門学校、化学分析部門は茨城県立水戸工業高等学校、測量部門は茨城県立土浦工業高等学校で実施された。

10月16日 第18回高校生ロボット相撲全国大会が、第20回全国産業教育フェア(茨城)のイベントとして「つくば国際会議場 3 F中ホール」で開催された。

10月28日~29日 第58回秋季研究協議会・埼玉大会が ホテル「ブリランテ武蔵野」で開催された。初日は、文 部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室教科 調査官 池守滋氏による講話があった。演題は「これか らの工業教育」であった。次に、調査研究部の4委員会 から今年度の調査研究報告があった。第2日目は、演題 「Suicaが世界を変える」~新しい社会インフラ想像 への挑戦~と題して、東日本旅客鉄道株式会社執行役員 椎橋章夫氏の講演があった。次に、研究協議が有り、6 地区から6本の研究発表があった。

平成23年(2011)

1月9日 ジャパンマイコンカーラリー 2011大会が、 北海道札幌国際情報高等学校で開催された。

1月26日 第8回高校生技術・アイディアコンテスト全 国大会の審査会実施。応募件数65作品。

2月8日 ジュニアマイスター顕彰認定委員会が開催され、後期申請者の認定が行われた。ゴールド1,983名、シルバー4,819名、合6,802名が承認された。また、通年での認定者はゴールド3,044名、シルバー7,048名、合計10,092名で、前年比118.7%であった。特別表彰275名、経済産業大臣賞1名を選んで表彰した。

2月13日 第6回高校生ロボットアメリカンフットボール全国大会が、パシフィコ横浜・展示Aホールで開催された。

4月16日 人工衛星打ち上げプロジェクト委員会が開催 された。今年度は合計8回の委員会を開催した。

5月24日 第62回総会・研究協議会が「ハイアットリージェンシー東京」で開催された。開会に先立って、東日本大震災の犠牲者に対する黙祷を捧げる。文部科学省初等中等教育局主任視学官 袖山禎之氏、経済産業省経済産業政策局産業人材政策室企画官 早矢仕楊哲氏、東京都教育庁指導部長 高野敬三氏等が参列され、ご祝辞をいただいた。

研究協議会は、「北海道地区工業校長会の工業高校活性化推進の取り組み」と題して北海道札幌琴似工業高等

学校長 木田清一が、もう1本は「全工協会ICT化の取り組み」と題して福島県立福島工業高等学校長 本橋信一と本協会事務局次長の瀧上文雄が行った。講演は、東京大学航空宇宙工学専攻教授 中須賀真一氏が「超小型衛星による新しい宇宙開発への挑戦」と題して行った。7月20日~8月31日 平成23年度夏季講習会が実施された。全国40会場、500名受講した。

7月21日~30日 第11回海外研修が実施された。今回からカナダ・アメリカ合衆国に変更となった。16人参加。 8月1日~8月6日 第2回全国工業教育指導者養成講

8月1日~8月6日 第2回至国工業教育指導省養成講習会が、全国9地区から推薦を受けた24名の教諭が参加して開催された。今回より9地区24名とした。

8月3日 ジュニアマイスター顕彰認定委員会が開催され、前期申請者の認定が行われた。ゴールド780名、シルバー1,709名、合計2,489名が承認された。

11月13日 第19回高校生ロボット相撲全国大会が、ものつくり大学で開催された。

11月17日~18日 第59回秋季研究協議会・沖縄大会が「パシフィックホテル沖縄」で開催された。初日は、文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室教科調査官 持田雄一氏による講話があった。演題は「これからの工業教育」であった。次に、調査研究部の4委員会から今年度の調査研究報告があった。第2日目は。演題「逆境からの出発」と題して、学校法人興南学園理事長・校長・野球部監督 我喜屋優氏の講演があった。次に、研究協議が有り、6地区から6本の研究発表があった。11月19日~20日 第11回高校生ものづくりコンテスト全国大会(東京)が開催された。旋盤作業部門、自動車整備部門、電気工事部門、電子回路組立部門、化学分析部門、木材加工部門は東京都立城東職業能力開発センター江戸川校、測量部門は東京都立葛西工業高等学校で実施された。

平成24年 (2012)

1月9日 ジャパンマイコンカーラリー 2012大会が、 北海道札幌国際情報高等学校で開催された。

1月25日 第9回高校生技術・アイディアコンテスト全 国大会の審査会実施。応募件数38作品。

2月8日 ジュニアマイスター顕彰認定委員会が開催され、後期申請者の認定が行われた。ゴールド1,983名、シルバー4,819名、合計6,802名が承認された。また、通年での認定者はゴールド3,044名、シルバー7,048名、合計10,092名で、前年比118.7%であった。特別表彰275名、

経済産業大臣賞1名を選んで表彰した。

2月19日 第7回高校生ロボットアメリカンフットボール全国大会が、パシフィコ横浜・展示ホールで開催された。 4月28日 人工衛星委員会が開催された。今年度は合計 12回の委員会を開催した。

5月22日 第63回総会・研究協議会が日本工学院専門学校片柳記念ホールで開催された。文部科学省初等中等教育局主任視学官 袖山禎之氏、経済産業省経済産業政策局産業人材政策室企画官 水野正人氏、東京都教育庁指導部長代理主任指導主事 藤井大輔氏等が参列され、ご祝辞をいただいた。

研究協議会は、「大震災 その後1年の取り組み」について、福島県立福島工業高等学校長 本橋信一、福島県立小高工業高等学校長 荒井勝彦、岩手県立宮古工業高等学校長 藤原斉、宮城県工業高等学校長 森武彦の3県4人の校長が発表した。もう1本は「東海地区全日制工業科卒業生の離職率調査」と題して岐阜県立高山工業高学校長 長屋千秋が行った。講演は、千葉工業大学未来ロボット技術研究センター副所長 工学博士 小栁栄次氏が「災害用ロボットの活躍と今後の課題」と題して行った。

7月23日~8月1日 第12回海外研修が実施された。カナダ・アメリカ合衆国への訪問は昨年に続き2回目である。17人参加。

7月23日~8月28日 平成24年度夏季講習会が実施された。全国45会場、546名受講した。

7月29日~8月4日 第3回全国工業教育指導者養成講習会が、全国9地区から推薦を受けた24名の教諭が参加して開催された。今回より宿泊施設を、工業教育会館のそば、歩いて5分の京王プレッソイン九段下に変更した。8月3日 ジュニアマイスター顕彰認定委員会が開催され、前期申請者の認定が行われた。ゴールド983名、シルバー2,093名、合計3,076名が承認された。

10月25日~26日 第60回秋季研究協議会・兵庫大会が「ANAクラウンプラザホテル神戸」で開催された。初日は、文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室教科調査官 持田雄一氏の演題「これからの工業教育」と、経済産業省特許庁総務部企画調査課知的財産活用企画調査官 河合弘明氏の演題「知的財産活用について」の講話があった。次に、調査研究部の4委員会から今年度の調査研究報告があった。第2日目は、演題「超大画面フィルム型ディスプレイSHiPLAが拓く未来」と

題して、篠田プラズマ株式会社代表取締役会長兼社長 篠田傳氏の講演があった。次に、研究協議が有り、6地 区から6本の研究発表があった。

11月17日~18日 第12回高校生ものづくりコンテスト全国大会(北信越)が開催された。今回は、会場確保の観点から分散開催を5県にまたがって行った。旋盤作業部門はポリテクセンター石川、自動車整備部門は松本情報工科専門学校、電気工事部門は長野県松本技術専門校、電子回路組立部門はポロテクセンター松本、化学分析部門は新潟薬科大学、木材加工部門は福井県立武生工業高等学校、測量部門は富山県総合運動公園屋内グランドで実施された。

11月25日 第20回高校生ロボット相撲全国大会が、ものつくり大学で開催された。

平成25年 (2013)

1月13日 ジャパンマイコンカーラリー 2013大会が、 北海道札幌国際情報高等学校で開催された。

1月23日 第10回高校生技術・アイディアコンテスト全 国大会の審査会実施。応募件数19作品。

2月8日 ジュニアマイスター顕彰認定委員会が開催され、後期申請者の認定が行われた。ゴールド2,745名、シルバー5,892名、合8,637名が承認された。また、通年での認定者はゴールド3,728名、シルバー7,985名、合計11,713名で、前年比110.1%であった。経済産業大臣賞1名、理事長賞、認定者数上位20校の学校表彰を選んで表彰した。

2月17日 第8回高校生ロボットアメリカンフットボール全国大会が、パシフィコ横浜・展示ホールで開催された。 4月27日 人工衛星委員会が開催された。今年度は合計 11回の委員会を開催した。

5月28日 第64回総会・研究協議会が日本工学院専門学校 片柳記念ホールで開催された。文部科学省初等中等教育局主任視学官 望月禎氏、経済産業省経済産業政策局産業人材政策室長 奈須野太氏、東京都教育庁指導部高等学校教育指導課長 江本敏男氏等が参列され、ご祝辞をいただいた。

研究協議会は、「工業教育金沢モデル」の推進~将来の希望実現に向け"人間力"を育てる~と題して、金沢市立工業高等学校長 内村博和が発表した。もう1本は「秋田県における特色のある学校作りの取組」と題して秋田県立秋田工業高学校長 西聡が行った。講演は、経済産業省経済産業政策局産業人材政策室室長補佐 中島

大輔氏が「我が国産業界の課題と若者育成への期待」と 題して行った。

7月23日~8月1日 第13回海外研修が実施された。カナダ・アメリカ合衆国への訪問は昨年、一昨年に続き3回目である。19人参加。

7月23日~8月28日 平成25年度夏季講習会が実施された。全国38会場、532名受講した。

8月4日~10日 第4回全国工業教育指導者養成講習会が、全国9地区から推薦を受けた24名の教諭が参加して開催された。

8月2日 ジュニアマイスター顕彰認定委員会が開催され、前期申請者の認定が行われた。ゴールド904名、シルバー1,925名、合計2,829名が承認された。

10月24日~25日 第61回秋季研究協議会・新潟大会が「ANAクラウンプラザホテル新潟」で開催された。初日は、文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室教科調査官 持田雄一氏の演題「これからの工業教育」と、経済産業省特許庁総務部企画調査課知的財産活用企画調査官 河合弘明氏の演題「創造性教育における知的財産活用について」の講話があった。次に、調査研究部の4委員会から今年度の調査研究報告があった。第2日目は、演題「心と五感に訴えるものづくり」と題して、新潟県立自然科学館館長 赤池学氏の講演があった。次に、研究協議が有り、6地区から6本の研究発表があった。

11月15日~17日 第13回高校生ものづくりコンテスト 全国大会(四国)が開催された。今回から、旋盤作業部 門は1日早く集合して準備に当たった。また、今回も会 場確保の観点から分散開催を4県にまたがって行った。 旋盤作業部門はポリテクセンター愛媛、自動車整備部門 は穴吹工科カレッジ、電気工事部門、電子回路組立部門 は徳島県立徳島科学技術高等学校、化学分析部門は香川 県立高松工芸高等学校、木材加工部門は高知県立高知工 業高等学校、測量部門は高知市青年センターで実施され

11月24日 第21回高校生ロボット相撲全国大会が、ものつくり大学で開催された。

平成26年 (2014)

1月12日 ジャパンマイコンカーラリー 2014大会が、 さっぽろアークシティサンピアザ「光の広場」で開催さ れた。

1月22日 第11回高校生技術・アイディアコンテスト全

国大会の審査会実施。応募件数21作品。

2月7日 ジュニアマイスター顕彰認定委員会が開催され、後期申請者の認定が行われた。ゴールド2,936名、シルバー5,776名、合8,712名が承認された。また、通年での認定者はゴールド3,840名、シルバー7,701名、合計11,541名で、前年比98.5%であった。経済産業大臣賞1名、理事長賞、認定者数上位20校の学校表彰を選んで表彰した。

2月23日 第9回高校生ロボットアメリカンフットボール全国大会が、パシフィコ横浜・展示ホールで開催された。 4月26日 人工衛星委員会が開催される。今年度は「製作協力校担当者会議」を含めて合計10回の委員会を開催した。

5月20日 第65回総会・研究協議会が東京電機大学で開催された。文部科学省初等中等教育局主任視学官 望月 禎氏、経済産業省経済産業政策局産業人材政策室長 奈 須野太氏、東京都教育庁指導部高等学校教育指導課長 江本敏男氏、東京電機大学学長 古田勝久氏等が参列され、ご祝辞をいただいた。

研究協議会は、「工業高校生の専門的職業人として必要な資質・能力の評価手法に関わる調査・研究」と題して、本協会顧問 原田昭が発表した。もう1本は「九州地区工業教育研究会の取組」と題して前福岡県立小倉工業高学校長 山田晴隆が行った。講演は、経済同友会「学校と経営者の交流活動推進委員会」委員長 杉江和男氏が「日本のものづくりの現状・今後と人材育成に対する期待と要望」と題して行った。

7月22日~31日 第14回海外研修が実施された。カナダ・アメリカ合衆国への訪問は昨年に続き4回目である。19人参加。

7月22日~8月30日 平成26年度夏季講習会が実施された。全国41会場、489名受講した。

8月1日 ジュニアマイスター顕彰認定委員会が開催され、前期申請者の認定が行われた。ゴールド1,031名、シルバー2,024名、合計3,055名が承認された。

8月3日~9日 第5回全国工業教育指導者養成講習会が、全国9地区から推薦を受けた24名の教諭が参加して開催された。

10月23日~24日 第62回秋季研究協議会・愛媛大会が「ひめぎんホール」で開催された。初日は、文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室教科調査官持田雄一氏の演題「これからの工業教育について」の講

話があった。次に、調査研究部の4委員会から今年度の 調査研究報告があった。第2日目は、演題「天分と実業」 と題して、株式会社技研製作所代表取締役社長 北村精 男氏の講演があった。次に、研究協議が有り、6地区か ら6本の研究発表があった。

11月15日~17日 第14回高校生ものづくりコンテスト 全国大会(東北)が開催された。今回から、旋盤作業部 門はA、Bグループに分けて金曜日から開催した。また 今回も、会場確保の観点から分散開催を4県にまたがっ て行った。旋盤作業部門は秋田県立大曲技術専門校、自 動車整備部門は山形県立山形職業能力開発専門校、電気 工事部門は山形職業訓練支援センター、電子回路組立部 門、化学分析部門は岩手県立盛岡工業高等学校、木材加 工部門は青森市はまなす会館、測量部門は秋田県立大曲 工業高等学校で実施された。

11月23日 第22回高校生ロボット相撲全国大会が、ものつくり大学で開催された。

平成27年(2015)

1月11日 ジャパンマイコンカーラリー 2015大会が、 さっぽろアークシティサンピアザ「光の広場」で開催さ れた。

1月26日 第12回高校生技術・アイディアコンテスト全 国大会の審査会実施。応募件数30作品。

2月9日 ジュニアマイスター顕彰認定委員会が開催され、後期申請者の認定が行われた。ゴールド2,835名、シルバー5,368名、合8,203名が承認された。また、通年での認定者はゴールド3,866名、シルバー7,392名、合計11,258名で、前年比97.5%であった。経済産業大臣賞1名、理事長賞、認定者数上位31校の学校表彰を選んで表彰した。

2月22日 第10回高校生ロボットアメリカンフットボール全国大会が、パシフィコ横浜・展示ホールで開催された。 5月2日 人工衛星委員会が開催された。今年度は「製作協力校担当者会議」を含めて合計12回の委員会を開催した。

5月19日 第66回総会・研究協議会が「千葉工業大学津田沼キャンパス」で開催された。文部科学省初等中等教育局主任視学官 水田功氏、経済産業省経済産業政策局産業人材政策室長補佐 近田高志氏、千葉県教育委員会教育振興部指導課長 小川哲史氏等が参列され、ご祝辞をいただいた。

研究協議会は、「平成26年度全日制工業高校生(近畿

地区)の離職率調査報告」と題して、京都市立洛陽工業高等学校長 牛田豊嗣が発表した。もう1本は「知的財産に関する想像力・実践力・活用力開発事業について」と題して独立行政法人工業所有権情報・研修館 知財人材部長 髙橋宣博氏が行った。講演は、国立科学博物館産業技術史資料センター長 鈴木一義氏が「日本のものづくり文化論~科学技術からモノづくり日本の原点を見直す~」と題して行った。

7月22日~31日 第15回海外研修が実施された。カナダ・アメリカ合衆国への訪問は昨年に続き5回目である。20人参加。

7月22日~8月30日 平成27年度夏季講習会が実施された。全国38会場、533名受講した。

8月2日~8日 第6回全国工業教育指導者養成講習会が、全国9地区から推薦を受けた24名の教諭が参加して開催された。

8月4日 ジュニアマイスター顕彰認定委員会が開催され、前期申請者の認定が行われた。ゴールド743名、シルバー 1,974名、合計2,717名が承認された。

10月15日~16日 第63回秋季研究協議会・愛知大会が「ウェスティンナゴヤキャッスル」で開催された。初日は、文部科学省初等中等教育局高校改革PT児童生徒課産業教育振興室産業教育調査官 尾白泰治氏の演題「高大接続システム改革の動向について」と、文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室教科調査官 持田雄一氏の演題「これからの工業教育について」の講話があった。次に、調査研究部の4委員会から今年度の調査研究報告があった。第2日目は、演題「国産旅客機MRJ」と題して、三菱航空機株式会社執行役員コーポレート本部長 岩佐一志氏の講演があった。次に、研究協議が有り、6地区から6本の研究発表があった。

11月14日~15日 第15回高校生ものづくりコンテスト 全国大会(九州)が開催された。会場確保の観点から分 散開催を3県にまたがって行った。旋盤作業部門、測量 部門は鹿児島県立鹿児島工業高等学校、自動車整備部門 は学校法人原田学園鹿児島情報高等学校、電気工事部門、 電子回路組立部門は独立行政法人大分職業能力開発促進 センター、化学分析部門、木材加工部門は宮崎県立宮崎 工業高等学校で実施された。

11月22日 第23回高校生ロボット相撲全国大会が、ものつくり大学で開催された。

平成28年 (2016)

1月9日 ジャパンマイコンカーラリー 2016大会から、協賛していた企業の協力が得られなくなり、本協会単独の事業として開催することとなった。学校法人片柳学園・日本工学院八王子専門学校で開催された。

1月26日 第13回高校生技術・アイディアコンテスト全 国大会の審査会実施。応募件数20作品。

2月9日 ジュニアマイスター顕彰認定委員会が開催され、後期申請者の認定が行われた。ゴールド2,949名、シルバー5,090名、合計8,039名が承認された。また、通年での認定者はゴールド3,692名、シルバー7,064名、合計10,756名で、前年比95.5%であった。経済産業大臣賞1名、理事長賞、認定者数上位30校の学校表彰を選んで表彰した。

2月21日 第11回高校生ロボットアメリカンフットボール全国大会が、パシフィコ横浜・展示ホールで開催された。

4月29日 人工衛星委員会が開催された。今年度は「製作協力校担当者会議」を含めて合計12回の委員会を開催した。

5月24日 第67回総会・研究協議会が「千葉工業大学津田沼キャンパス」で開催された。文部科学省初等中等教育局主任視学官 梶山正司氏、経済産業省経済産業政策局産業人材政策室長補佐 近田高志氏、千葉県教育委員会教育振興部指導課長 小畑康生氏等が参列され、ご祝辞をいただいた。

研究協議会は、「工業高校生の専門的職業人として必要な資質・能力の評価手法の調査研究」と題して、本協会工業教育研究所嘱託員 鳥居雄司が発表した。もう1本は「工業高校とポリテクカレッジの連携」と題して独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構公共職業訓練部調査役 鰺坂純朗史が行った。講演は、一般財団法人ジェームスダイソン財団JDF統括 神山典子氏が「未来のエンジニアに必要な教育~英国ダイソン&テクノロジーから学ぶ~」と題して行った。

7月24日~30日 第16回海外研修が実施された。今回から募集要項を大幅に改訂して、生徒の負担を大幅に減少させた。訪問先も変更し、ベトナム社会主義共和国(ハノイ・ホーチミン)を中心とした。20人参加。

7月21日~8月31日 平成28年度夏季講習会が実施された。全国50会場、743名受講した。講習会担当者の努力により、応募定員に満たない講座も開講できるようにし、また定員オーバーについてもできるだけ受け入れてくだ

さるように交渉した。その結果受講者数が増加した。 7月31日~8月6日 第7回全国工業教育指導者養成講習会が、全国9地区から推薦を受けた24名の教諭が参加して開催された。

8月5日 ジュニアマイスター顕彰認定委員会が開催され、前期申請者の認定が行われた。ゴールド815名、シルバー1,793名、合計2,608名が承認された。

10月13日~14日 第64回秋季研究協議会・山形大会が「山形国際ホテル」で開催された。初日は、文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室教科調査官持田雄一氏の演題「これからの工業教育について」の講話があった。次に、調査研究部の4委員会から今年度の調査研究報告があった。第2日目は、演題「木造都市づくりへの挑戦」と題して、株式会社シェルター代表取締役 木村一義氏の講演があった。次に、研究協議が有り、6地区から6本の研究発表があった。

11月12日~13日 第16回高校生ものづくりコンテスト 全国大会(北海道)が開催された。旋盤作業部門は北海 道職業能力開発大学校、自動車整備部門は一般社団法人 札幌地方自動車整備振興会、電気工事部門は北海道小樽 工業高等学校、電子回路組立部門は北海道札幌国際情報 高等学校、化学分析部門は北海道札幌琴似工業高等学校、 木材加工部門は北海道科学大学、測量部門は北海道苫小 牧工業高等学校で実施された。

11月27日 第24回高校生ロボット相撲全国大会が、ものつくり大学で開催された。

平成29年(2017)

1月8日 ジャパンマイコンカーラリー 2017大会が、学校法人片柳学園・日本工学院八王子専門学校で開催された。

1月23日 第14回高校生技術・アイディアコンテスト全 国大会の審査会実施。応募件数26作品。

2月14日 ジュニアマイスター顕彰認定委員会が開催され、後期申請者の認定が行われた。ゴールド2,813名、シルバー4,992名、合計7,805名が承認された。また、通年での認定者はゴールド3,628名、シルバー6,785名、合計10,413名で、前年比96.8%であった。経済産業大臣賞1名、理事長賞、認定者数上位30校の学校表彰を選んで表彰した。

2月19日 第12回高校生ロボットアメリカンフットボール全国大会が、パシフィコ横浜・展示ホールで開催された。

4月23日 人工衛星委員会が開催された。今年度は「製作協力校担当者会議」を含めて合計10回の委員会を開催 した。

5月23日 第68回総会·研究協議会が学校法人片柳学園・日本工学院専門学校片柳記念ホールで開催された。文部科学省初等中等教育局高校教育改革PT産業教育室長高見太也氏、東京都教育庁指導部高校教育改革担当課長池上信幸氏等が参列され、ご祝辞をいただいた。

研究協議会は、「『課題研究』を通した生徒の資質・能力の育成につながる指導方法と評価手法の研究」と題して、仙台市立仙台工業高等学校長 佐藤明嘉が発表した。もう1本は「工業高校生の専門的職業人として必要な資質・能力の修得に関する評価手法及び育成手法の研究」と題して前岡山県立倉敷工業高等学校長 楢原靖が行った。講演は、ダイヤ精機株式会社 代表取締役 諏訪貴子氏が「企業経営と人事育成」~中小企業の求める人材~と題して行った。

7月21日~8月31日 平成29年度夏季講習会が実施された。全国56会場、791名受講した。

7月23日~29日 第17回海外研修が実施された。訪問 国は、昨年度から実施しているベトナム社会主義共和国 (ハノイ・ホーチミン)を中心とした地域。22人参加。 7月30日~8月5日 第8回全国工業教育指導者養成講 習会が、全国9地区から推薦を受けた24名の教諭が参加

8月4日 ジュニアマイスター顕彰認定委員会が開催され、前期申請者の認定が行われた。ゴールド779名、シルバー1,925名、合計2,704名が承認された。

して開催された。

9月26日 創立百周年記念ロゴマーク選考委員会開催。会員学校62校から1580作品の応募があった。審査の結果、最優秀賞1名。優秀賞4名に表彰状と記念品を授与した。10月26日~27日 第65回秋季研究協議会・栃木大会が「ホテルニューイタヤ」で開催された。初日は、文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室教科調査官 持田雄一氏の演題「これからの工業教育について」の講話があった。次に、調査研究部の4委員会から今年度の調査研究報告があった。第2日目は、演題「期待される未来想像型人財育成に向けて」と題して、アルプス電気株式会社取締役 梅原潤一氏の講演があった。次に、研究協議が有り、6地区から6本の研究発表があった。11月18日~19日 第17回高校生ものづくりコンテスト全国大会(中国)が開催された。旋盤作業部門は広島職

業能力開発促進センター、自動車整備部門は一般社団法 人岡山県自動車整備振興会、電気工事部門、電子回路組 立部門、化学分析部門、木材加工部門は広島県立広島工 業高等学校、測量部門は岡山県立岡山工業等学校で実施 された。

11月26日 第25回高校生ロボット相撲全国大会が、ものつくり大学で開催された。

平成30年 (2018)

1月7日 ジャパンマイコンカーラリー 2018大会が、 学校法人片柳学園・日本工学院八王子専門学校で開催さ れた。

1月22日 第15回高校生技術・アイディアコンテスト全 国大会の審査会実施。応募件数21作品。

2月8日 ジュニアマイスター顕彰認定委員会が開催され、後期申請者の認定が行われた。ゴールド3,269名、シルバー5,136名、合計8,405名が承認された。また、通年での認定者はゴールド4,048名、シルバー7,061名、合計11,109名で、前年比106.7%であった。経済産業大臣賞1名、理事長賞、認定者数上位30校の学校表彰を選んで表彰した。

2月18日 第13回高校生ロボットアメリカンフットボール全国大会が、パシフィコ横浜・展示ホールで開催された。

5月22日 第69回総会・研究協議会が「学校法人片柳学園・日本工学院専門学校片柳記念ホール」で開催された。 文部科学省初等中等教育局高校教育改革 P T 産業教育室長 高見太也氏、経済産業省大臣官房参事官産業人財政策室長 伊藤禎則氏、東京都教育庁指導部高等学校教育指導課長 佐藤聖一氏等が参列され、ご祝辞をいただいた。

研究協議会は、「『実習指導』を通した工業高校生の専門的職業人として資質・能力の評価手法の実践研究」と題して、栃木県立栃木工業高等学校長 湯澤修一が発表した。もう1本は「押し寄せるクルマの電動化の波とアメリカ・カリフォルニア州のZEV規制」と題して公益財団法人日本自動車教育振興財団専務理事 上橋義弘氏が行った。講演は、石坂産業株式会社 代表取締役 石坂典子氏が「絶体絶命でも世界一愛される会社に変える」〜社員の夢の実現と希望を叶える職場を創る〜と題して行った。

7月21日~8月31日 平成30年度夏季講習会が実施された。全国56会場、820名受講した。

7月22日~28日 第18回海外研修が実施された。訪問 国は、ベトナム社会主義共和国のハノイを中心とした地 域。22人参加。

7月29日~8月4日 第9回全国工業教育指導者養成講習会が、全国9地区から推薦を受けた24名の教諭が参加して開催された。

8月7日 ジュニアマイスター顕彰認定委員会が開催され、前期申請者の認定が行われた。今年度から、3番目の位としてブロンズが制定された。ゴールド1,129名、シルバー2,270名、ブロンズ2,859名、合計6,258名が承認された。

10月11日~12日 第66回秋季研究協議会・北海道大会が「ホテル ライフォート札幌」で開催された。初日は、文部科学省初等中等教育局産業教育振興室 教科調査官持田雄一氏の演題「高等学校学習指導要領の改訂と工業教育」の講話があった。次に、調査研究部の4委員会から今年度の調査研究報告があった。第2日目は、演題「科学的志向の育成」と題して、学校法人北海道科学大学理事長 苫米地司氏の講演があった。次に研究協議が有り、6地区から6本の研究発表があった。

8月12日 人工衛星委員会が開催された。今年度は「製作協力校担当者会議」を含めて合計7回の委員会を開催した。

11月17日~18日 第18回高校生ものづくりコンテスト全国大会(東海)が開催された。旋盤作業部門、化学分析部門は愛知県立愛知総合工科高等学校、自動車整備部門は学校法人沼津学園飛龍高等学校、電気工事部門は株式会社トーエネック教育センター、電子回路組立部門は静岡県立科学技術高等学校、木材加工部門は四日市市三浜文化会館、測量部門は岐阜県立岐阜工業等学校で実施された。

11月23日 (第26回) 高校生ロボット相撲全国大会2018 が「ビックパレットふくしま」で開催された。今回から 予選地区割を変更した。9地区から6地区になった。

平成31年 (2019)

1月13日 ジャパンマイコンカーラリー 2019大会が、 学校法人片柳学園・日本工学院八王子専門学校で開催さ れた。

1月21日 第16回高校生技術・アイディアコンテスト全 国大会の審査会実施。応募件数30作品。

2月8日 ジュニアマイスター顕彰認定委員会が開催され、後期申請者の認定が行われた。ゴールド3.169名、

シルバー 4,508名、ブロンズ1,986名、合計9,663名が承認された。また、通年での認定者はゴールド4,298名、シルバー 6,778名、ブロンズ4,845名、合計15,921名で、前年比143.3%あった。経済産業大臣賞1名、理事長賞、認定者数上位30校の学校表彰を選んで表彰した。

2月17日 第14回高校生ロボットアメリカンフットボール全国大会が、パシフィコ横浜・展示ホールで開催された。

令和元年 (2019)

5月21日 第70回総会・研究協議会が「ハイアット リージェンシー東京・センチュリールーム」で開催された。 今回は、創立百周年記念式典を開催するため午前中の開催とした。文部科学省初等中等教育局参事官(高等学校担当)付産業教育振興室長 井上賢一氏等が参列され、ご祝辞をいただいた。

研究協議会は、「研究指定を活用した課題解決の取り 組み」と題して、北海道釧路工業高等学校長 金谷秀幸 が発表して終了した。

午後は、周年行事として創立百周年記念式典が挙行された。詳細は第11章に述べられている。

第2節 工業教育会館の建設について

1 全工協会の軌跡と工業教育会館

ここで、全工協会の軌跡と活動の本拠である工業教育 会館の沿革について概観してみる。

大正9年3月15日大阪において、工業教育(工業校長 会)ときわめて深い関係を持つ商工中心会が創設された。 この商工中心会により大阪、近畿全域、更には6大都市 に工業学校長会の組織が作られ、大正14年全国実業教育 会に発展した。一方、上記6大都市の工業学校を会員と する工業教育研究会は、当時、焦眉の急務であった教科 書の編集に乗り出し、大正15年には第1次の出版を行っ た。その後、この事業の活発化を図るため本拠を東京に 移し、昭和5年財団法人工業教育振興会となり、昭和12 年東京市麹町区飯田橋(現在地)の木造2階建事務所へ 移転した。激動する昭和時代の苦難を乗り越えたのち、 昭和30年全国工業高等学校長協会を設立し、土地・建物・ 什器等を譲渡し、設立初期の目的を遂げた。昭和31年3 月12日付けをもって全工協会は公益団体「社団法人全国 工業高等学校長協会」となった。平成24年4月1日から は、「公益社団法人全国工業高等学校長協会」となり、

科学技術および時代の進展に即応した活発な活動を展開 し今日に至っている。

以上のような青史をもつ全工協会の活動が広がり、また、日本経済の高度成長に伴い、昭和44年に旧工業教育会館(鉄筋 4 階建て総面積965㎡)が建設され、昭和44年5月28日に竣工披露が行われた。

その後、旧工業教育会館は歳月を経て老朽化や耐震化等の問題が生じてきたため、新工業教育会館(鉄筋9階建て延べ面積2,100㎡)の建設が検討され、平成20年5月27日の全工協会総会において改築を決定、平成21年2月5日に起工式を行い建設に着手、平成22年5月に竣工し、新たな工業教育会館での業務を平成22年6月21日から開始した。

このように永い歴史をもつ本協会は、令和元年に創立 百年を迎えた。

※平成29年5月23日の第68回総会において、本協会の 創立記念日を大正9年3月15日と決定した。

以上のような青史をもつ全工協会の発展の軌跡は、全工協会刊行の50年史、60年史、70年史、80年史、90年史、100年史の記念誌に詳述されている。全工協会の活動が広がり、また、日本経済の高度成長に伴い従来の木造事務所が狭隘となり、各界の協力を得て新しい工業教育会館(鉄筋 4 階建て総面積936㎡)を建設した。昭和44年全工協会50周年行事(商工中心会創立年度を全工協会設立年度と定めた)を5月27日に行い、翌28日に関係者多数の参列を得て盛大な竣工披露が行われた。

その後、時代の要請に応えて平成3年7月1日付けにて全工協会内に付属工業教育研究所を創設し(工業教育会館3階)、工業教育会館を部分改築した。

2 新工業教育会館建設に向けて

全国工業高等学校長協会の活動の拠点として新工業教育会館がある。大きな変革期でもあるため、その建設について九十年史と全く同様の紹介をする。

旧工業教育会館は、昭和44年に全工協会創立50周年事業の一環として建設(平成3年に一部改築)されたものであるが、竣工以来40年を経た躯体にも老朽化が目立ち、設備等の不具合も発生するとともに、耐震性あるいはアスベスト等の不安が残されていた。

平成14年度より、会館改修研究費として年間10万円の 予算が計上されていたが、4年間未執行のままであった。 平成18年12月の理事会に、「工業教育会館改修検討委 員会」(仮称)を設置する件が提案された。ここでは、 会館の現状及び増改築の必要性等の検討事項が提案され、今年度中に組織を立ち上げることとした。

平成19年5月、理事会・評議員会に委員会の委員構成 及び検討事項が提案された。

- ・委員会の構成は、第1委員会と第2委員会で構成する。
- ・第1委員会は、全国的な構成とし、検討に関わる骨子 を策定するなど、大所高所的見地での検討を行う。
- ・第2委員会は詳細を含めた検討を行い、第1委員会に検 討結果を示し、当該委員会の意見を聞き再度検討する。
- ・第2委員会は、建築士の資格を有する学校長を委員長 として構成し、改築の必要性や財務関係及び改築に関 わる技術面などの検討を行う。

委員の構成は、第1委員会については、理事長、地区代表理事(場合により代わり委員の選出も可)の計11名で、第2委員会については、理事長、副理事長、関東地区に隣接する地区などから推薦を受けた委員3名程度、計5~6名とする。

検討事項としては、増改築の必要性を重点に

- ・今後の社会晴勢の変化(含む現在の建物の安全性)
- ・費用及び積立金の状況
- ・公益法人としての在り方等

第1回工業教育会館改修検討委員会:施設設備の問題 消防、空調、エレベータ、耐震等 設備の拡充:どうい う用途にするのか、機能上の問題 公益法人との関連。 第2回委員会:会館は内外装・設備の劣化が著しい。耐 震的にも補強ないしは建て替えが必要。さらにはアスベ スト等。改修した場合でも、改築の半分以上かかる。委 員会としての結論は「改修でなく建て替えでいくべきで ある」となった。その後、日建設計に説明、設計に入る。

今後の進め方として、公益法人とテナントの問題、会 館機能の検討、基本設計への生徒参加、総会までの基本 スケジュール等。

第3回委員会:何階建てにするか結論を出す。1階のエントランスホールは工業高校のシンボルとなるものに、またホールは2階に設置する。

第1・第2委員会合同会議:今までの経過報告、デザインコンセプト及び改良図面、スケジュールについて、今後は第2委員会で主として協議し、その都度第1委員会に報告するということで了承を取る。

第4回委員会:マスタースケジュール、平面計画、総会 までの準備等。 第5回委員会:建物の断面・外装・構造、概算コスト等。 第6回委員会:平面図、外観パース、敷地測量、アスベスト調査、概算書、総会時の配付資料について。

5月27日:全工協会総会・研究協議会…工業教育会館の 改築を全会一致で決定、模型展示。

第1回工業教育会館建設委員会:名称変更後初めての開催、実施設計スケジュール、確認申請の提出先、アスベスト調査、「生徒のデザインコンペ」の件。

今後の事務作業について:委員会の構成を理事長+旧第2委員会とする。この委員会に権限を委譲し、その都 度理事会に報告するものとする。

第2回委員会:実施設計図をもとに、各階ごとに確認事項を検討する。本工事の名称を「工業教育会館新築工事」とする。

第3回委員会:今後の発注スケジュール…見積依頼、現場見学、(解体に伴うもの)見積受領、査定報告、施工業者選定。アスベスト調査結果、発注図書(解体、新築)の説明。

見積説明会: 鹿島建設、大成建設、大林組、奥村組、大和ハウス工業の5社に対し図面説明会を実施。その後大林組より辞退の申し出があった。

事務局の移転: 8月15日に行う。新住所は飯田橋3-11-13ダヴィンチ飯田橋ビル10階

現場説明会:大林組を除く4社に対し、解体する会館を 案内。

9月8日:見積書提出。一覧表の作成(日建)。

第4回委員会: 鹿島建設が日建の概算及び協会の予算に近く、かつ、コストダウン (CD) の余地もあり第1候補とする。

その後鹿島建設が、CDを受け入れるとともに、仕様を変更せず、物価上昇に伴うコストアップを契約価格に反映しないという表明があったので、理事長、委員長及び委員の了承を取った上で鹿島に内示を伝える。

10月1日:3者(日建、鹿島、協会)の初顔合わせによる打ち合わせを行う。

日建より…近隣住民説明、行政協議スケジュールについて、解体説明会は戸別訪問で、新築説明会は協会で10月28日に実施。

鹿島より…全体工事日程表、解体計画図等の説明。

10月27日:解体工事契約

10月28日:近隣説明会、18時30分より、参加者は日建より3名、鹿島より10名、協会3名の計16名。住民の参加

者は北と西側に隣接する3名のみであった。

11月5日:境界検査立会い

11月19日:新築工事契約

平成21年2月5日:起工式11時~11時40分、出席者は、日建執行役員・設計部門代表亀井忠夫氏他4名、鹿島執行役員石川義則氏他5名、協会は佐藤義雄理事長、村田敬一建設委員長、田中良司、小林 薫の各委員、毛利昭事務局長、橋本三男次長、立川 勇。その後13時30分から協会において第5回建設委員会を兼ねて、工事着工会議を行う。日建藤井参事の司会で自己紹介の後、①監理体制について②施工体制について③建築概要の説明以上は日建が説明、④全体工程表・2月月間工程表の説明、上は日建が説明、④全体工程表・2月月間工程表の説明、登建設工事計画説明(山留め、杭、基礎仮設、地上仮設等)以上は鹿島が説明、総合定例・週定例について確認(総合定例は月1回第2月曜日13時30分に3者による打合せ、週定例は協会を除く2者による打合せで毎週月曜日の13時30分に行う)、場所は鹿島の建設事務所とする。

なお、建設委員の参加については重要な決定にあたっては参加してもらうがそれ以外は事務局が当たる。その他の質疑として、生徒の現場見学の件・生徒のデザインコンペの参加の件について話し合う。前向きに検討することとなった。

2月9日:第1回総合定例会議 13時30分 鹿島事務所 解体工事について、前回議事録の確認、監理方針書の説 明、実施工程および2月度月間工程の説明、総合図工程 について、近隣対応状況の説明、関係者からの協議・連 絡事項、その他

3月9日:第2回総合定例会議 13時30分 鹿島事務所 前回議事録の確認、監理報告書の説明、工事報告書の説 明、3月度月間工程表の説明、近隣対応状況の説明、関 係者からの協議・連絡事項、その他

平成21年4月以降についても、毎月第2月曜日に総合 定例会議を実施し、平成22年(2010)5月31日の竣工に 向けて建設が進んでいた。

平成22年6月21日「工業教育会館」改築完工に伴い、事 務所を工業教育会館に戻した。

3 工業教育会館建設に関わる企画から竣工まで

日本橋川右岸の千代田区飯田橋二丁目・三丁目地区約 18ヘクタールの再開発が行われ、オフィスビルやホテル の林立するオフィス街に変貌したのは平成15年である。 それ以前はJR飯田町駅貨物ターミナルや紙流通センター倉庫であったところを再開発したものであり、開発のコンセプトは「水と緑と歴史」であった。この地に隣接する工業教育会館建設もこの主旨を活かした景観に配慮した。

本協会の東南角地にあるモニュメントも、古くは平川 (現神田川)の流域にあったこの地に相応しいものとして、水・緑・歴史に「川」のイメージを加えるものとした。正面から見れば三枚の鋼板が滝のように配されているが、横に回れば周期の長いsinカーブが川が蛇行しているように見えるデザインとした。当時の事務局がアイディアを示し(株)日建設計がデザイン化したものである。

4 建設経緯

(1) 設計監理業者との契約

(株)日建設計 平成20年5月27日 72,900,000円(設計 平成20年3月1日~平成21年1月31日)(監理 平成21年2月1日~平成22年9月30日)

(2) 施工業者との主な契約

解体工事 鹿島建設 (株) 平成20年10月27日

27,300,000円

解体追加工事 鹿島建設 (株) 平成21年 8月25日 1,980,000円

(工期は平成20年10月27日~平成21年1月31日)新築工事 鹿島建設(株)平成20年11月19日

1,068,900,000円

(工期は平成21年2月1日~平成22年5月31日)

(3) 工業教育会館の建設経過

平成18年12月3日 工業教育会館改修検討開始

平成19年5月22日 「工業教育会館改修検討委員会」

(仮称)の設置(委員会は6回開催

される)

平成19年12月17日 「工業教育会館改修検討委員会」が

新築 (案) を提示

平成20年2月5日 理事会、評議員会にて案を承認

平成20年2月15日 設計監理を(株)日建設計に委託

平成20年5月27日 平成20年度第59回全工協会総会で

新工業教育会館建築案を承認

平成20年6月27日 「工業教育会館建設委員会」の設置

平成20年7月29日 指名入札の検討

平成20年8月15日 仮事務所に移転

(千代田区飯田橋3-11-13

ダヴィンチ飯田橋10階)

平成20年9月16日 入札の結果

鹿島建設(株)を施工業者として

決定

平成20年10月1日 解体工事着手

平成21年2月5日 起工式

平成21年6月1日 家具・アート作品等の

生徒対象コンペ募集開始

平成21年7月21日 モックアップ (実物模型) 点検

平成21年12月21日 家具・アート作品コンペ審査会

最優秀賞はステップベンチが

選ばれた

平成22年5月26日 竣工検査

平成22年5月31日 工業教育会館竣工

平成22年6月8日 竣工式

平成22年6月19日 事務局を仮事務所より新会館に移転

※工事期間、総合定例会議を15回開催

総合定例会議は工業教育会館建設委員と設計監理業者

及び施工業者(協力会社含む)

三者による合同会議で、月一回の定例開催としたもの。

5 工業教育会館の建築概要

(株) 日建設計の工事概要書から抜粋

· 敷地面積 421.26㎡

·建築面積 267.27㎡

・延べ床面積 2076.96㎡

・建築物高さ 9階建て(地下なし)

軒高37.06m

・構造 基礎:場所内コンクリート杭

(アースドリル拡底工法)

建物:SRC造

・各階の仕様

1階:エントランスホール/ギャラリー/駐車場

2階:ホール

3階:全工協会事務局事務室

4階:工業教育研究所/印刷室/書庫

5階:各種会議室

6階~9階:賃貸用事務室